

	シーズ名	高齢者脊柱後弯症の病因と病態の解明 —腰曲がり根絶に向けた取り組み—
	所属・役職・氏名	整形外科学・講師・星野 雅俊 (HOSHINO, Masatoshi)

<要旨>

超高齢社会となった我が国において、高齢者の健康寿命の延伸は喫緊の課題である。脊柱後弯症は、後弯姿勢による脊柱起立筋の慢性的な痛みや、消化管障害、バランス保持不良による転倒、ボディイメージの悪化による意欲の減退、うつ傾向へとつながるもので、高齢者 QOL を著しく損なうことが知られている。これまで脊柱後弯症の原因の詳細は不明のままであった。そこで5年の追跡期間を持つ高齢者400名の縦断的研究を行い、高齢者脊柱後弯症の病因・病態の解明を成し遂げれば、効果的効率的な予防介入法の確立につながり、腰まがりが根絶され、高齢者の健康寿命の延伸に寄与できると考えた。

<研究シーズ説明>

【対象】

大阪市立大学および白庭病院に通院中の脊椎疾患患者 200名
 奈良県生駒市在住の一般住民高齢者 200名

【観察項目】

- ・質問票：性別、年齢、既往歴
 要支援要介護区分、頸部痛/腰痛/膝痛 VAS、EQ-5D、フレイル、ロコモチェック、HADS、ODI、NDI など
- ・身体検査：筋量（体組成計）、筋力、歩行速度、重心動揺計、認知機能など
- ・画像検査：単純 X 線（全脊柱、下肢全長）、骨密度、脊椎 MRI（全脊柱）など
- ・血液尿検査：血中マイオスタチン、25OH ビタミン D、ペントシジンなど

脊柱後弯症
“腰曲がり”



⇔ 筋肉
 ⇔ 骨
 ⇔ 椎間板



効率的かつ効果的な予防法の開発



<アピールポイント>

- ・高齢者の運動器の健康寿命の延伸は本邦の課題
- ・既に前向き高齢者コホート研究が始動
- ・病因・病態の解明ができた後、様々な介入研究が可能

<利用・用途・応用分野>

- ・製薬メーカーにおいては、新たな創薬の可能性。
- ・食品会社においては、新たな栄養製品の開発。
- ・電子・電気メーカーにおいては、医療装置、リハビリ装置の開発。
- ・血液検査会社においては、新たな診断方法の確立。

<関連する知的財産権・引用文献・学会発表など> 特になし

<関連するURL> なし

<他分野に求めるニーズ>

新たな創薬、栄養製品の開発。医療装置、リハビリ装置の開発。診断方法の開発。

キーワード	高齢者、脊柱後弯症、サルコペニア、骨粗鬆症、フレイル、ロコモ
-------	--------------------------------